

[石川県] 珠洲市立宝立小中学校 (義務教育学校)

1. 学校(区)概要

- 教育目標：ふるさと宝立の自然や人に学び、たくましく生き抜く子の育成
- 所在地：珠洲市宝立町鶉飼丑部83番地
- 施設形態：施設一体型
- 児童生徒数 (R3.5.1時点)



学年	小学校								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	4	15	3	14	7	5	2	50	10	7	4	0	21	71
学級数	1	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	0	3	9

2. 導入経緯

【検討開始のきっかけ】

人口減少社会における学校教育の在り方を検討する中で、豊かな人間性と自立心をもった児童生徒を育成するためには、地域に根差し開かれた学校づくりを推進するとともに、小・中が緊密に連携し、義務教育9年間を見通した一貫性のある教育を行う必要があるとの結論に至ったこと。

【具体的な経緯】

- 平成20年8月 「珠洲市における学校統合問題（今後の望ましい教育環境）」答申
- 平成20年10月 宝立地区学校統合問題に係る説明会・意見交換会（平成21年5月まで 計5回開催）
- 平成21年8月 宝立小中学校一貫教育検討委員会（平成22年7月まで 計3回開催）
- 平成21年12月 珠洲市小中一貫教育協議会（平成22年7月まで 計6回開催）
- 平成24年4月 小中一貫校として珠洲市立宝立小中学校 開校
- 平成28年4月 義務教育学校として珠洲市立宝立小中学校 開校

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- ふるさと珠洲を愛し、思いやりの心をもって、地域の未来、そして日本の未来に活躍できる人間力をそなえた児童生徒を育成する。
- 義務教育9年間を児童生徒の発達段階を踏まえ、指導の連続性を確保した継続的な指導を行うことで児童生徒の個性の伸長を図る。

施設活用

- 施設一体型（小学校棟を中学校棟に増設、7年教室は小学校棟に設置）
- 小学校棟（1年～4年は1階フロアで隣接、5年～7年は2階フロアで隣接）
- 中学校棟（8年・9年は3階フロアで隣接）



小学校棟	中学校棟
第1年～第7年	第8年・第9年
児童生徒約60人	生徒約11人
教職員約10人	教職員約11人

教職員体制

- 校長：1名配置
- 教職員：兼務発令なし
小学校教員 中免許状保有者数（国1・社1・数2・理1・英1）
中学校教員 小免許状保有者数（1名 ※免許状教科で前期課程の教科担当可）（R3.4現在）

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：きり英語科（1・2年生の国際理解教育としての英語授業10時間）
- 区切り：4-3-2制
- 学校行事等：4-3-2制の各ブロックによる集会活動、ブロックで行う「ふるさと珠洲科」の学習発表会

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：一部教科担任制
（小学校の6年社会・理科・図工・家庭・体育、5年図工・体育、4年音楽・図工、2年図工・体育）
- 教員の相互乗り入れ：中学校教員が上記の一部教科担任制の教科に乗り入れ

児童生徒の異学年交流の工夫

- 4-3-2制の各ブロックによる集会活動、縦割り班による運動会・文化祭、縦割り遊び集会、ブロック遠足

市町村教育委員会等による支援

- 教職員の加配配置

その他

- ふるさと珠洲科（総合的な学習の時間）の学習における地域・関係機関の協力体制

テーマ：小学校と中学校の教員の相互乗り入れによるすべての児童生徒とかかわりあう学習環境

小規模校においては、様々な価値観に出会うことや多様な教職員から指導を受けることが限られたり、人間関係が固定化したりするなどの課題が挙げられることが多い。しかし、反面、異学年の交流を図りやすく、一人一人の児童生徒にきめ細かい指導がしやすいという利点もある。本校では、小規模校の利点と義務教育学校として小中教員の相互乗り入れ授業等の学習環境を工夫することを通して学力向上や社会性・人間関係の育成に取り組んでいる。

● 一部教科担任制としての乗り入れ

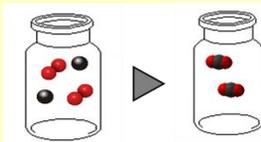
- ・後期課程（中学校）の教員が担当教科の乗り入れ授業を行うことで発展的な指導や専門的な視点での指導を行うことができる。
- ・今年度は、後期課程（中学校）の社会、理科、家庭、美術、音楽、体育の教員が下表の前期課程（小学校）の学年に乗り入れを行っている。

学年	2年	4年	5年	6年
教科	図工 体育	音楽 図工	図工 体育	社会・理科 図工・家庭・体育

【専門的な視点での指導例】

< 6年理科「物の燃え方と空気」>

酸素が減り二酸化炭素が増える現象を分子モデルを使って説明することで児童に酸素が減ることの具体的なイメージをもたせることができた。



● 学力に課題がある生徒へのきめ細かな指導としての乗り入れ

- ・学力に課題がある生徒に生徒の学力や課題を把握している前期課程（小学校）の教員がT2として支援にあたることで、生徒の課題に対応したきめ細かな指導を行うことができる。
- ・T2はT1と協力しながら課題解決のヒントの提示、発表の仕方の示唆、ノートの書き方の指導等を行う。

教科	教員	分担
数学	後期課程（中学校）教員	T 1（教科指導）
	前期課程（小学校）教員	T 2（生徒支援）

【数学の授業でのTT】



● 多様な教員や価値観との出会いとしての道徳の乗り入れ

- ・乗り入れ道徳をすることで、様々な価値観に出会うことや多様な教職員の指導を受けることができるようになる。
- ・全職員が全校児童生徒と授業で関わることで児童生徒理解を深めることにつながっている。
- ・学校全体で児童生徒を育成する教職員の意識や9年間を見通して一貫した指導をしようとする意識の向上につながっている。

	1年 担任	2年 担任	9年 担任	9年 副担
担当 学年	4年 7年	5・6年 9年	2年 7年	3年 9年



これまでの成果と課題、今後の取組

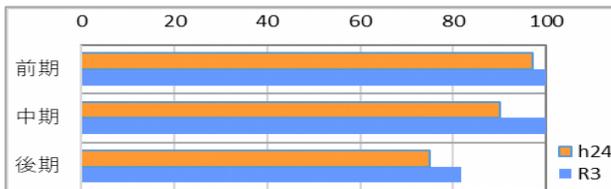
小規模校と義務教育学校の利点を生かすことで、次のような成果がみられる。

- ・多面的・多角的な思考につながる学習環境の向上
- ・学習環境の向上による学習意欲や内容理解の向上
- ・学校全体で社会性や人間関係をそだてようとする教職員の一体感の向上

今後、以下の課題については引き続き改善を図るよう取り組んでいく必要がある。

- ・前期課程と後期課程の指導の連続性を図るための指導の一貫性の確立（「意識する・つかむ」「考える」「深める」「まとめる・生かす」の4つの学習過程の共通実践と育てたい力を付ける指導法の充実を図る研究体制の確立）
- ・小規模校の中においても切磋琢磨する環境の創出

【児童生徒アンケート「授業の内容がよくわかる」】



【全校（小中合同）研究授業整理会】

